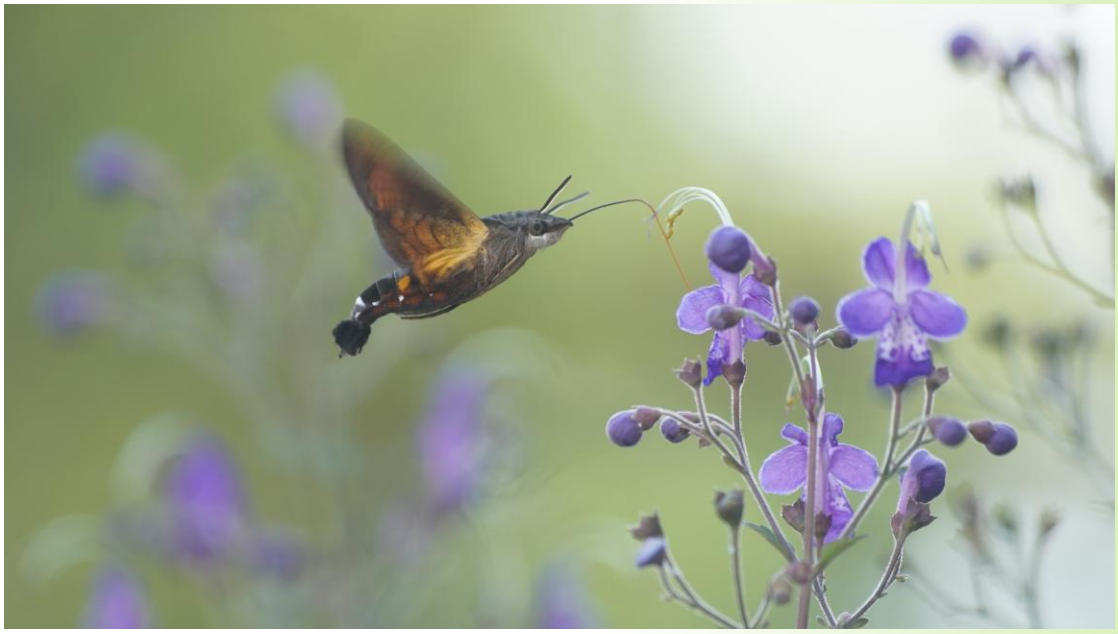
エコアクション21
認証番号0007191

# 第61期
## （2023年度）
# 環境経営レポート

対象期間：2023年9月1日～2024年8月31日



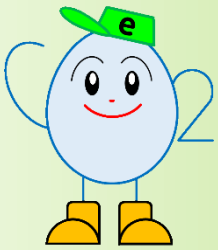
MIYAMA
株式会社 みやま

2024年12月20日　発行

# 目　次


1.　SDGsへの取組・・・・・・・・・・・・・・　2
2.　組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・　4
3.　EA21実施体制・・・・・・・・・・・・・・　5
4.　環境経営方針・・・・・・・・・・・・・・・　6
5.　当期環境目標及び中期目標・・・・・・・・　7
6.　環境目標の達成状況・・・・・・・・・・・　8
7.　環境目標達成のための計画と実績・・・・　12
8.　環境法規への違反・訴訟の有無・・・・・　16
9.　代表者による全体の評価と見直し・・・・　17
10. 環境活動への取組み・・・・・・・・・・・　18
11. 社会活動への取組み・・・・・・・・・・・　19


みやまEA21
キャラクター「eco2郎」



# はじめに

当社は、1947年の創立以来77年にわたりプラスチックの金型製作と射出成形に取り組んで参りました。1995年から「世界中のどこに行ってもPPSという樹脂名が出た時に日本に『みやま』がある、と言っていただける企業になる！」というビジョンを掲げ、金属の代替樹脂であるPPS(ポリフェニレンサルファイド)の金型作成と成形技術を確立し、お客様の樹脂化への取り組みや商品開発に協力させていただいております。
コロナ禍においては医療機器部品の増産もあり、PPSにとどまらずスーパーエンプラ各種樹脂への取り組みを広げております。

国際情勢を踏まえますと一企業では先が読めない状況も起きておりますが、日本に土台を据え、固有の技術をしっかりと社内に培い次の世代に受け継ぐためには、環境保護と生産活動が合致する取り組みが不可欠と認識しております。製造業で環境負荷を減らす事は如何に効率よく良品を生み出し生産性をあげられるかに尽きると存じます。
SDGs推進企業としてエコアクション21 及びISO9001を当社流に融合させた活動に力を入れて本来業務での一人一人の日々の取組みの積み重ねが$CO_2$削減に役立つことが、従業員各自の個人目標を通して意識の変化に繋がってきております。

2030年を見据えた中長期経営計画を視える化し、経営方針・目標の達成が最終的には$CO_2$削減に役立つとの視点から方針管理の側面にも活動の幅を広げ、環境保護活動を益々充実させているところです。
今後も環境に優しいものづくりを通じて社会貢献していくとの強い想いをベースに、この活動を強化・継続していく所存です。

環境コミュニケーション大賞 2019 優良賞 環境経営レポート部門

環境コミュニケーション大賞 2021 優秀賞 環境経営レポート部門

SDGs NAGANO JAPAN NAGANO PREFECTURAL GOVERNMENT REGISTERED PARTNER

# 1.SDGsへの取組み

当社は、国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）に賛同し、事業活動を通じてより良い未来の実現に貢献してまいります。

SDGs
REGISTERED PARTNER
NAGANO PREFECTURAL GOVERNMENT

2019年7月、株式会社みやまは長野県SDGs推進企業（第1期）に登録されました。

## みやま　SDGsへの貢献

| | | |
|---|---|---|
| 12 つくる責任 つかう責任 | 13 気候変動に具体的な対策を | **CO2排出量の削減**<br>本来業務の改善による品質向上・不良削減を行い、製造工程において排出される$CO_2$単位売上当りの排出量の削減に努めます。 |
| 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに | 9 産業と技術革新の基盤をつくろう | **金属から樹脂への置き換え**<br>金属代替樹脂であるPPS材料の成形に高い技術力を持つ当社の強みで、自動車部品等への採用で軽量化と燃費向上に貢献し、経済性と環境に貢献します。 |
| 4 質の高い教育をみんなに | 8 働きがいも経済成長も | **人財育成**<br>すべての従業員に学ぶ機会を提供し、個々人が自ら成長する喜びを感じられる職場作りを行います。 |

## 私のSDG s 取組目標

社員ひとりひとりのＳＤＧｓ取組目標を定め、社内の掲示板へ社員の写真付きで取組目標を掲示しました。これにより社員のＳＤＧｓへの取組意識向上と知識醸成をはかり、社内全体へＳＤＧｓへの理解を根付かせています。

## 1.SDGsへの取り組み

# 品質方針

金属の悩みを樹脂で解決！
私達は世界の幸せな未来に貢献します。

1. 顧客優先
社是・社訓に基づき、時流の変化を先読みし、
顧客の厳しい要求に挑戦し続ける。

2. 品質至上
より確かな、より高い精度の要求に応えるため、
常に“品質第一”を念頭に置いて行動する。

3. 人材の育成
社員一人ひとりの持つリソースに着目し
個性を伸ばし、人間性豊かな人財を育成する。

4. 継続的改善
業務を楽にたのしくする品質マネジメント
システムを構築し、顧客満足の向上を図れる
改善を継続的に実施していく。

5. 品質目標
年度ごと、時節に合った品質目標を設定し、
PDCAを回し続けることにより、効果的な
達成を目指す。

2019年6月25日
MIYAMA
代表取締役社長 百瀬真希

## 2．組織の概要

●会社名　株式会社みやま
●所在地　長野県茅野市ちの１７６－５

●代表者名　代表取締役社長　百瀬　真希
●環境管理責任者　専務取締役工場長　百瀬　幸男

●連絡先
TEL　0266-72-3178
FAX　0266-73-5473
E-mail　miyama@miyama-gr.co.jp

●事業内容　プラスチック射出成形・金型製造

●認証の対象範囲　本社・本社工場

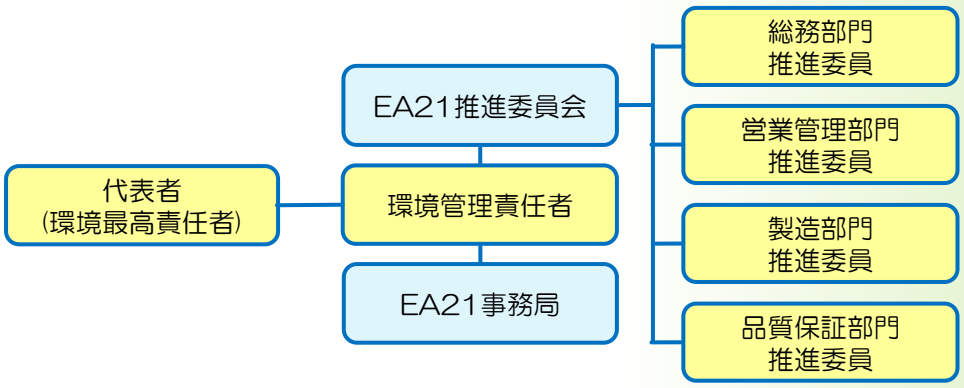
●事業規模

| 第61期（2023年度） | |
|---|---|
| 売上額 | ９億５９８万円 |
| 従業員数 | 72名 |
| 延床面積 | 3,667.28㎡ |
| 敷地面積 | 4,171㎡ |

MIYAMA
本社・本社工場

PPSは金属の代替樹脂として誕生、耐薬品性を有し、強度も高い為、水周りのバルブ等に使用されています。

# 3．EA21実施体制




| 役職・組織名 | 役割・責任・権限 |
|---|---|
| 環境最高責任者 | ①環境方針を策定し、全員に周知する<br>②環境経営全般に関して、責任と権限を持つ<br>③EA21の全体の評価と見直しを行う<br>④環境管理責任者を定め、必要な責任者を任命する |
| 環境管理責任者 | ①EA21の取組みの実行責任者として活動を進める<br>②環境推進委員会の招集を指示し、審議事項の承認<br>③緊急事態対応訓練の計画を指示し、実施記録の承認<br>④法規制等の遵守状況の管理 |
| エコアクション21<br>事務局 | ①EA21環境活動計画を作成し、実行を進める<br>②環境への取組の自己チェックを実施する<br>③環境会議を隔週に行い、状況の把握、見直し、記録集計する<br>④環境管理責任者、実施部門と連携し、問題点等を会社に周知する |
| 総務部門<br>推進委員 | ①グリーン購入比率の向上を進める<br>②会社周辺地域の環境維持活動に積極的に参加する<br>③紙の使用削減に努める<br>④冷暖房の効率化を進める |
| 管理部門<br>推進委員 | ①必要に応じた材料、資材の効率的な購入に努める<br>②社有車輌の維持管理及び燃料の削減に努める |
| 製造部門<br>推進委員 | ①不良率を減らすことにより、材料購入の低減と産業廃棄物の削減をはかる<br>②生産の効率化(ショット数・稼働率の向上)による電力量削減を進める<br>③冷房効率を高めLPGの削減に努める<br>④化学物質削減、上水道の有効活用及び水使用量の削減に努める |
| 品質保証部門<br>推進委員 | ①客先クレーム、社内不具合発生件数の集計と低減をはかる<br>②ペーパーレス化の推進<br>③サンプルの保管期限と管理方法の仕組を構築する<br>④省資源、省エネに努める |

# 4．環境経営方針

## 〈基本理念〉

当社は八ヶ岳に抱かれ、縄文時代から続く歴史と文化、そして諏訪湖を臨む素晴らしい自然環境に恵まれた地域に立地しています。

この地に生活していた多くの人々が守り育んできた環境を未来の子供達に引き継げる様に、環境にやさしいものづくりを行います。

本来業務の改善を通して、高い【環境品質】を作りだし、$CO_2$の削減に取り組むことで、当社に関わる全ての皆様の【満足度】を高め、社員一人一人の健康で豊かな生活の実現を図り、社会の持続可能な発展に貢献します。

## 〈環境行動宣言〉

株式会社みやまは地球環境の保全が経営の重要課題であると認識し、全員参加で事業活動と環境保全の両立に取り組みます。

## 〈環境行動方針〉

1．納期を遵守し、効率的な生産を追求することで、二酸化炭素・資源及びエネルギーの削減に努めます。

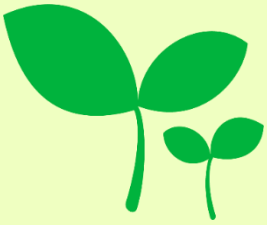
2．全員参加の５Sと改善活動を継続的に行うことで、生産性向上、品質向上をはかり、本来業務と環境保全を一体のものとします。

3．環境法規・協定を遵守し、環境への意識向上を図り地域社会に貢献します。

4．環境経営方針を定め全社員に周知すると共に、環境への取り組みを環境活動レポートとして情報開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。

5．グリーン購入・グリーン調達を積極的に進めます。

6．全社員への定期的な環境教育を行い環境マネージメントシステムの継続的改善に努めます。



制定日　2010年9月1日
改　定　2017年9月1日
株式会社みやま
代表取締役社長　百瀬真希

# 5．当期環境目標及び中期目標

- 2016年度を基準年度に再設定し、管理しています。
  （係数は中部電力2023年度、二酸化炭素調整後排出係数 0.459 kg-$CO_2$/kWhを使用）
- 目標値は製品売上100万円当たりの使用/排出量 としています。

| 項目 ＼ 年度 | | 54期<br>2016年度<br>(基準年度) | 61期<br>2023年度<br>(当期目標値) | 62期<br>2024年度 | 63期<br>2025年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| $CO_2$<br>排出量の削減 | kg-$CO_2$/百万円 | 1140.02 | 915.00<br>▲19.74% | 890.00<br>▲21.93% | 890.00<br>▲21.93% |
| 電力による<br>$CO_2$排出量の削減 | kg-$CO_2$/百万円 | 1044.24 | 910.00<br>▲12.85% | 883.00<br>▲15.44% | 883.00<br>▲15.44% |
| LPGによる<br>$CO_2$排出量の削減 | kg-$CO_2$/百万円 | 21.29 | 40.00<br>+87.92% | 39.00<br>+83.23% | 39.00<br>+83.23% |
| ガソリンによる<br>$CO_2$排出量の削減 | kg-$CO_2$/百万円 | 21.20 | 21.00<br>▲0.96% | 20.00<br>▲3.93% | 20.00<br>▲3.93% |
| 軽油による<br>$CO_2$排出量の削減 | kg-$CO_2$/百万円 | 2.94 | 2.50<br>▲15.03% | 2.42<br>▲17.75% | 2.42<br>▲17.75% |
| 灯油による<br>$CO_2$排出量の削減 | kg-$CO_2$/百万円 | 44.60 | 35.00<br>▲21.52% | 34.00<br>▲23.76% | 34.00<br>▲23.76% |
| 水道<br>使用量の削減 | ㎥/百万円 | 0.64 | 0.55<br>▲14.21% | 0.54<br>▲15.77% | 0.54<br>▲15.77% |
| 産業廃棄物<br>排出量の削減 | kg/百万円 | 16.01 | 25.00<br>+56.15% | 25.25<br>+51.47% | 25.25<br>+51.47% |
| 可燃物<br>排出量の削減 | kg/百万円 | 0.59 | 0.55<br>▲7.19% | 0.54<br>▲8.87% | 0.54<br>▲8.87% |
| 化学物質<br>使用量の削減 | ℓ/百万円 | 0.47 | 0.47<br>▲0.13% | 0.46<br>▲2.25% | 0.46<br>▲2.25% |
| 環境美化活動<br>春ー上川土手清掃（上原区主催）<br>夏ー清水川清掃（飯島区主催）<br>上川 江川橋清掃活動 | | 2回参加<br>1回参加<br>月1回実施 | 2回参加<br>1回参加<br>月1回実施 | 2回参加<br>1回参加<br>月1回実施 | 2回参加<br>1回参加<br>月1回実施 |

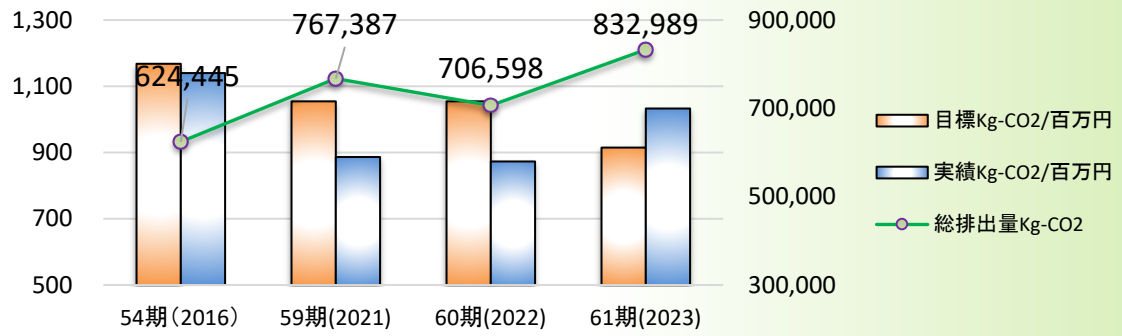
# 6．環境目標の達成状況

【評価基準】　目標達成　＝ ○
目標未達成 ＝ ×

- 目標値/実績の分母は製品売上としています。

| 二酸化炭素排出量 | SDGs |
|---|---|

| 61期 目標値 | 実績（単位） | 総排出量 | 判定 |
|---|---|---|---|
| 915 kg-$CO_2$/百万円 | 1033 kg-$CO_2$/百万円 | 832989 kg-$CO_2$ | × |

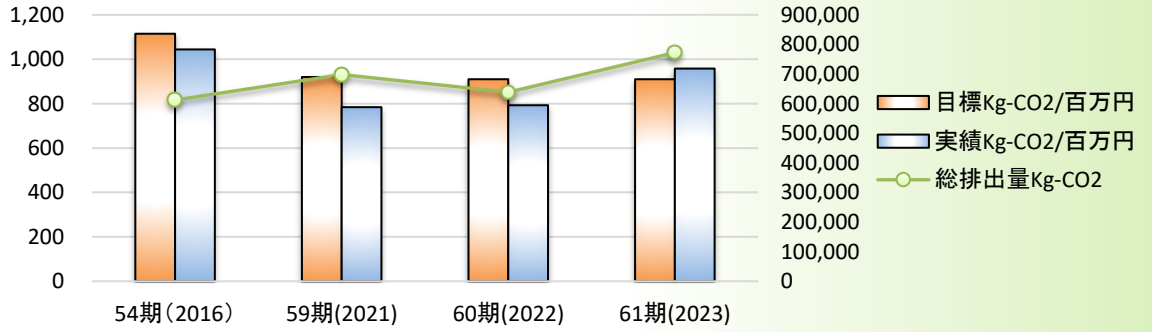



**結果と次年度の取り組み**

- 個別項目の評価結果がＣ$O_2$排出量に寄与している。
- 電力の契約会社が変更になったことにより$CO_2$の排出量が増加した。
- ムダな消費を減らす努力が必要である。

| 電力による二酸化炭素排出量 | SDGs |
|---|---|

| 61期 目標値 | 実績（単位） | 実績（総量） | 判定 |
|---|---|---|---|
| 910 kg-$CO_2$/百万円 | 958 kg-$CO_2$/百万円 | 772410 kg-$CO_2$ | × |




**結果と次年度の取り組み**

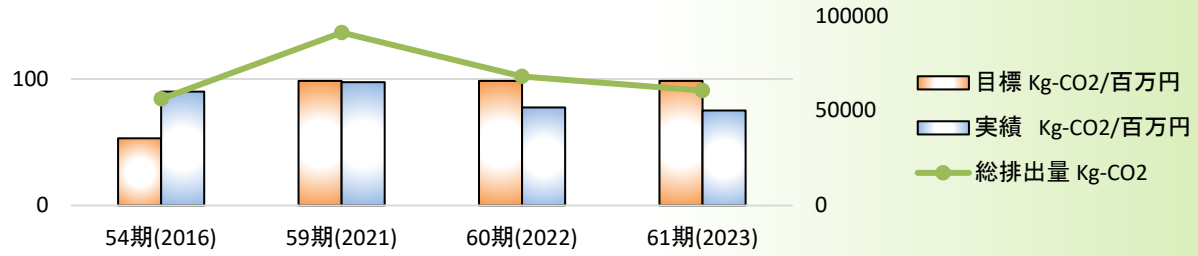
- 契約電力会社の変更により$CO_2$排出量が多くなった。
- SDGsの取組みによる従業員の意識が高くなり、日常の節電効果により低減している。
- 成形機の増加による使用量の増加が原因と考えられるが、ムダの無い生産を行い目標達成を目指す。

# 6．環境目標の達成状況

【評価基準】　目標達成　＝○
目標未達成＝×

| 化石燃料による二酸化炭素排出量 | SDGs | 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに / 11 住み続けられる まちづくりを / 13 気候変動に具体的な対策を |
|---|---|---|

| 61期 目標値 | 実績（単位） | 実績（総量） | 判　定 |
|---|---|---|---|
| 98.5 kg-$CO_2$/百万円 | 75 kg-$CO_2$/百万円 | 60579 kg-$CO_2$ | ○ |



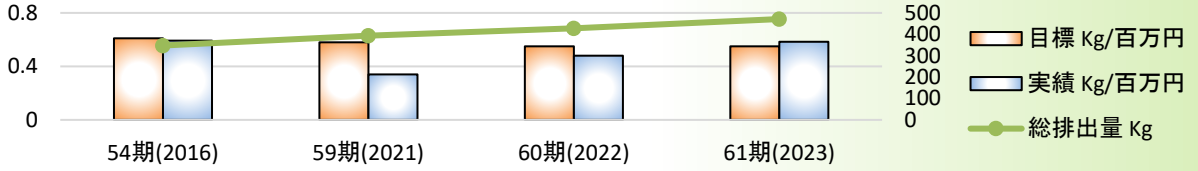

| 項　目 | ガソリン | 軽　油 | 灯　油 | LPG |
|---|---|---|---|---|
| 判　定 | ○ | ○ | ○ | × |
| 実　績（kg-$CO_2$/百万円） | 19.43 | 0.54 | 7.82 | 47.31 |

## 結果と次年度の取り組み

- WEB等を使用し、車を使った営業活動が減少した。
- 輸送の外注化を進めることで軽油の使用量も削減し、目標達成となった。
- 工場内の環境改善、冷房の効率を行った。
- 使用量の削減とともに効率的な冷暖房の使用を実施し、作業環境の改善を進める。

| 可燃物排出量 | SDGs | 11 住み続けられる まちづくりを / 12 つくる責任 つかう責任 |
|---|---|---|

| 61期 目標値 | 実績（単位） | 実績（総量） | 判定 |
|---|---|---|---|
| 0.55 kg/百万円 | 0.58 kg/百万円 | 471.12 Kg | × |



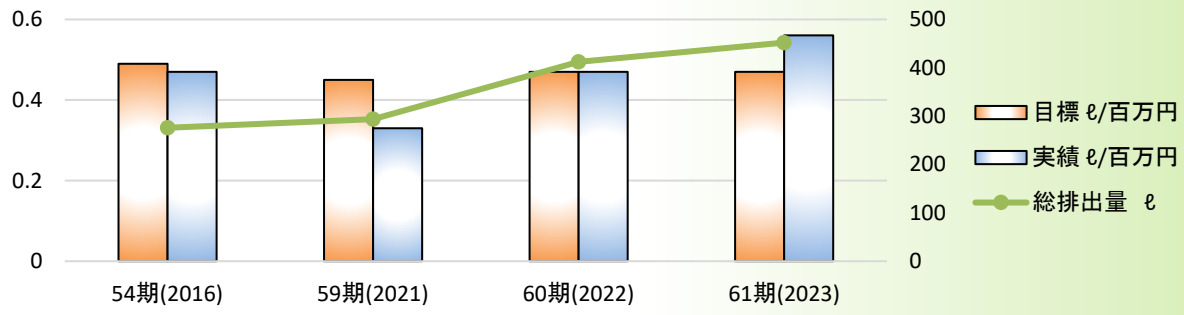

## 結果と次年度の取り組み

- 毎月ほぼ一定の排出となっており、従業員の意識が徹底されてきたものと思われる。
- 次年度も継続して５Ｓ活動に取り組み、ごみの分別、個人のごみの持ち帰りを徹底する。

# 6．環境目標の達成状況

【評価基準】　目標達成　＝○
目標未達成＝×

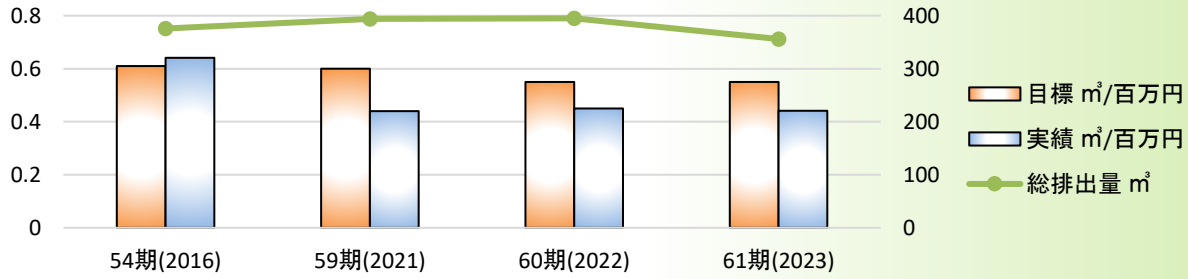
| 化学物質使用量 | SDGs | | |
|---|---|---|---|
| 61期 目標値 | 実績（単位） | 実績（総量） | 判定 |
| 0.47 ℓ/百万円 | 0.56 ℓ/百万円 | 452.12ℓ | × |




結果と次年度の取り組み

- 生産量が減少しているにもかかわらず、増加してしまった。。
- 前期比使用量増の要因を分析し、ムダのない使用方法を行えるよう改善を推進する。

| 水道使用量 | SDGs | | |
|---|---|---|---|
| 61期 目標値 | 実績（単位） | 実績（総量） | 判定 |
| 0.55 ㎥/百万円 | 0.44 ㎥/百万円 | 356.00 ㎥ | ○ |



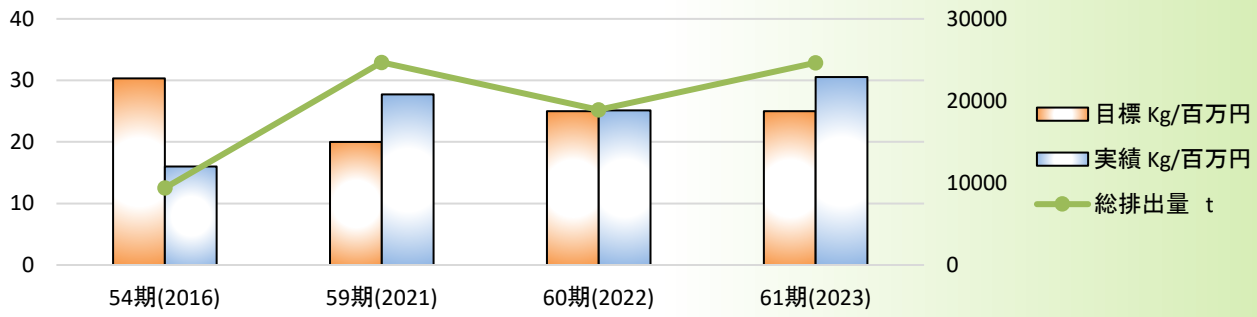

結果と次年度の取り組み

- 使用量は一年を通して安定しており、自動水栓の効果が出ていると考えられる。
- 設備による節水及び、SDGs活動による一人一人の意識向上を推進する。

# 6．環境目標の達成状況

【評価基準】　目標達成　＝ ○
目標未達成 ＝ ×

| 産業廃棄物排出量 | SDGs | |
|---|---|---|
| 61期 目標値 | 実績（単位） | 実績（総量） | 判定 |
| 25.00 kg/百万円 | 30.8 kg/百万円 | 24861 Kg | × |




結果と次年度の取り組み

- 不動在庫や長期保管在庫の処分を行ったため、増加したと考えられる。
- 分別、リサイクルを推進すると共に、本来業務である工程不良の削減に重点的に取り組む。

## 第61期行動スローガン

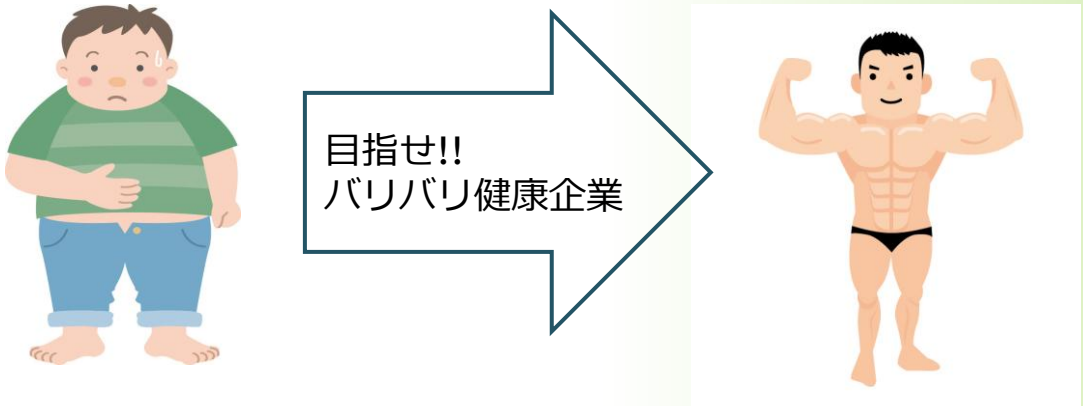
今ここに100％！
自分のパターンや制限を超え、
自責で全面的に取り組む

# 7．環境目標達成のための計画と実績

弊社では、事業活動による基本的な節電、節水、廃棄物の削減を推進すると共に、本来業務の達成率を高めることによって$CO_2$排出量が低減できるとの考え方の下、EA21活動の目玉として本来業務の改善に重点を置いて取り組んでいます。

総務部門

| 目　標 | 実施項目 | 実施結果と次年度取り組み |
|---|---|---|
| 1．経営力強化 | ①人材確保<br>②ホームページの更新<br>③就業規則改新<br>④健康づくりチャレンジ宣言・健康経営優良法人2025申請<br>⑤社内教育実施 | ・人材確保のためハローワーク・各種媒体への継続的働きかけ。掲示内容の研究・見直し<br>・ブログ更新・ホームページの写真の工夫・ハローワーク配布用資料作成により企業のイメージアップに貢献<br>・就業規則改新完了<br>・健康づくりチャレンジ宣言・健康経営優良法人2025申請<br>・毎月2回全社員教育実施・産業医による健康教育講話実施<br>・部所間におけるHELP要請への社内応援への働きかけ<br>・ノー残業DAYの残業者数の視える化<br>・喫煙率を下げるために喫煙者に禁煙教育の働きかけ<br>・組織の層を厚くするための人財教育の体系化をおこなう |
| 2．経費削減 | ①書庫・倉庫整理による在庫品の見える化 | ・帳票書類の廃棄によりスペースがうまれ、事務消耗品などを在庫のわかるように配置<br>・コスト意識を高めるため、消耗品の単価を表示。使用者は使用するたびに経費金額を使用ノートに記入。<br>・電力料・材料費の売上との対比等を見える化しコスト意識を高める |
| 3．会計ソフト運用 | ①入力業務簡略化 | ・新会計ソフト導入のための月次資料の改訂<br>・ソフト活用による迅速化 |



# 7．環境目標達成のための計画と実績

営業管理部門

| 目　標 | 実施項目 | 実施結果と次年度取り組み |
|---|---|---|
| 1．売上<br>12億円<br>営業利益1.5%<br>UP↑ | ①ブランディング戦略（自社製品の販売）<br>②既存顧客・新規顧客の深耕（訪問による動向入手） | ・売上12億円にて目標達成率75%となり目標未達成の結果となった。<br>内訳として量産101%、金型74%<br><br>・来期の売上目標は14億円とする。<br><br>・既存顧客に対しては、新製品開発情報をキャッチし、アプローチを行う<br>・展示会を活用し新規顧客を発掘する<br>・対面営業活動を増加させる。 |
| 2．在庫の適正化 | ①各社の基準在庫の明化<br>②長期在庫の見直し<br>③歩留が悪い為、多く生産する製品や生産終了等で打ち止め製品の情報共有化 | ・各社の内示情報・今後の動向情報を基に社内展開を各部署の協力が図れた。<br>・在庫の適正化として月平均20日を目標活動を行ったが各資材コストUPにより下期目標を21日とし活動を行った。<br><br>・お客様の生産動向の確認をし情報の共有により生産数の確認をした上で適正な在庫を確保する。 |
| 3．Fコストの削減 | ①更新金型の提案<br>②「もったいない」の情報収集と改善<br>③工程変更による外注活用 | ・長期金型・長期保有製品引取を進め管理費のコスト削減が出来た。<br>・毎月受注予測表と材料購入量予測による意識向上、協力体制構築が進んだ。<br><br>・品質保証数を超えた金型に対して更新への働きかけをお客様へ計画的にを実施し金型更新をはかる。<br>・外注活用により、汎用樹脂(透明、白物)製品の金型移管にてFコストの削減につなげる。 |
| 4．情報の視える化 | ①案件情報の視える化<br>②TECHS工程情報の更新・工程進捗の視える化<br>③DRの運用見直し<br>④ 図面の電子化 | ・図面管理システムの導入・運用。<br><br>・色んな情報を共有する仕組みを考え、各職場で活用、また改善に結べれるよう進めていく。<br><br>・DRの実施、運用見直しによる社内共有。 |

# 7．環境目標達成のための計画と実績

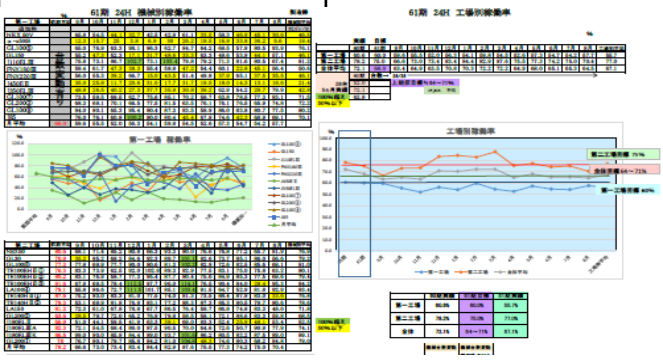
品質保証部門

| 目　標 | 実施項目 | 実施結果と次年度取り組み |
|---|---|---|
| 1．Fコスト削減<br>999万円以下<br><br>不具合件数<br>46件以下 | ①ダイレクトな客先対応<br>②先手を打つ金型改善<br>③初品確認タイミング改善<br><br>②③による不良品の、<br>生産そのものの削減 | ・製造品管や段取り者との密なコミュニケーションにより不良の低減や品質の向上を行う事が出来た。<br>・初品の確認タイミングについては、改善をはかれたが不具合を見つけ出すための検査の仕方に工夫が必要である。<br>・初品での不具合発見率の向上を来期へも引き継ぎ課題とする。<br>・DRのフェーズごとの改善を通して製品起因の課題改善の盛り込みが明確になり進捗がみられた。<br>・金型作成・製品製造・管理共に次年度に向け改善活動を通して各部署連携をはかり抜本的な不具合対策を行っていく。 |
| 2．全社員での不具合意識向上<br><br>クレーム・不具合の情報共有<br><br>品質定期教育 | ①月曜日・毎週朝礼での<br>不具合情報発表<br>（全社員）<br>②品質定期教育の開催<br>（全社員）<br>③OFF-JT,OJTによる、<br>品証メンバーのスキルUP | ・毎週月曜日の全社朝礼で、客先クレームや社内で発生した問題を発表し、情報の共有化を行った事で課題を自分事にし不良発見への意識を高めることができた。<br>・社員全体への不良発生要因の教育を複数回開催した。一方年間での開催回数については参加人員・開催タイミングの工夫が必要であった。<br>・品証メンバー全員が、積極的に外部講習への参加を行う事が出来き、ボトムUPをはかれた手ごたえがあった。<br>・次年度も社外講習の活用と現場訓練を通して品質保証の仕組み強化をはかる。<br>・今後、共有した情報のその後の展開や対策内容についても社内で共有し、社員全体の品質に対する意識レベルのUPにつなげていく。 |
| 3．製造現場での<br>品質作りこみ<br><br>部門間連携<br>情報共有 | ①製造段取り・メンテと、<br>品証の連携・協力体制<br>検査係との連携・協力<br>②DRの活用、<br>情報共有・展開 | ・製造品管が創設され、製造部と常時協力しあって品質の作り込みを行える体制が整った。<br>・各フェーズ毎のDRへ、品証メンバー全員が積極敵に参加したことで過去トラの共有や量産での品質管理方法の展開がはかれた。しかし開催時期と製品フェーズがズレてしまうことがあり、DRの運用方法には課題が残る<br>・品質を金型で保証できるDRの開催タイミングを品証主導で確立していく。<br>・各部署との朝ミーティングを開催し、品質情報の共有をタイムリーに行っていく事で協力体制の強化を図る。 |
| 4．外注管理 | ①外注への赤伝・対策書<br>の発行・指導<br>②標準類・製品サンプルの<br>充実と展開 | ・コロナ禍で控えていた外注への監査を実施した。監査を通して品質改善の活動を一部の外注先で実施したところ品質不具合の低減が見受けられ活動効果が表れた。<br>・標準類の一部見直し等を行いトレサビリティがより明確になる改善が図れた。<br>・定期的な外注訪問を実施しさらなる改善を図る。 |

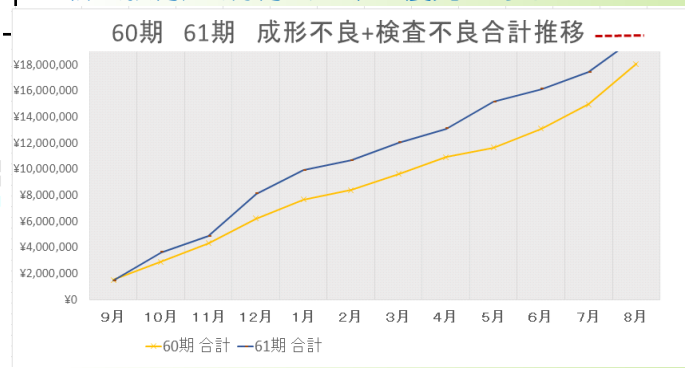
# 7．環境目標達成のための計画と実績

製造部門

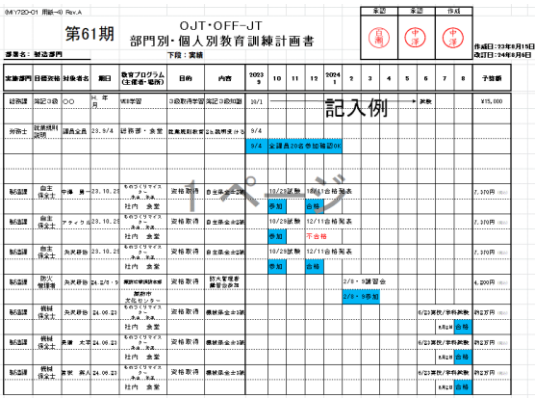
| 目　標 | 実施項目 | 実施結果と次年度取り組み |
|---|---|---|
| 1．機械稼働率把握<br><br>目標　71% | ①金型トラブル停止の削減<br>②生産計画通りの生産<br>③機械設備総台数28台 | ・機械台数28台＝67.1%<br><br>・金型トラブル停止での課題解決が必務<br>部門間連携と原因の真因対策を進める。 |
| 2．成形不良の削減<br><br>999万円/年<br>以下を目指す | ①初品判定NGリスト表の作成とFBをする<br>②品質情報FB品の対策検討と実施<br>③不良ワースト20の検討と対策を実施<br>④問題金型の改善 | ・61期総額　成形不良　2.009万円<br>過去から見てワースト1/未達成となった。<br>顧客からの品質要求の厳しさも増し<br>社内LOTアウト件数が増えた事が要因。<br>顧客流出防止には繋がったが<br>部門間連携での対応/対策が弱かった！<br>又、前期同様金型老朽化問題/慢性問題が<br>解決出来ず仕舞いもあった。<br><br>・更新金型や保証ショット超えの金型<br>と問題金型の改善を顧客交渉し進める。 |
| 3．スキルUP<br><br>2年未満者＝144点<br><br>その他社＝214点<br><br>資格の取得 | ①課員19名の品質指導<br>②ボール盤処理者数UP<br>③射出検定3名受験<br>④自主保全士3名受験<br>⑤機械保全士3名受験<br>⑥スキル表総合点把握 | ・全課員のスキルUPは出来たが<br>課員の入れ替えが激しい年度で有った。<br>・自主保全士合格2名<br>・機械保全士合格3名<br>・射出検定1級合格1名<br><br>・新人教育/人材育成が第一優先である |




1．成形機稼働率の推移




2.成形不良金額/前期との比較推移




3.資格所得での教育計画と結果

3．製造課資格取得者一覧

# 8．環境法規への違反・訴訟の有無

以下の法が適用されるため、2023年8月31日に遵守確認を行ったところ下記の結果でした。また、環境に関するステークホルダーからの苦情は、本年度もありませんでした。

| 適用法 | 法規則内容 | 評価結果 | 判定 |
|---|---|---|---|
| 廃掃法 | 産業廃棄物の処理 | ・産業廃棄物処理委託契約の有効性を確認し、処理実態に問題はありませんでした。<br>・マニフェスト保管に問題はありませんでした。 | ○ |
| 騒音規制法 | 射出成形機<br>コンプレッサー設備 | ・測定値は茅野市の騒音規制値内にあります。 | ○ |
| 振動規制法 | 射出成形機<br>コンプレッサー設備 | ・測定値は茅野市の騒音規制値内にあります。 | ○ |
| 消防法 | 特定施設の届出 | ・灯油の地上タンクの異常臭発生及び油量異常減少の日常管理を実施し管理状態にあります。 | ○ |
| グリーン調達基準 | 特定化学物質の管理 | ・グリーンマーク商品の購入、顧客要求に基づく特定化学物質非含有材料の使用を推進しています。 | ○ |
| 家電リサイクル法<br>小型家電<br>リサイクル法 | 廃棄時の記録管理等 | ・廃棄時の記録を残し、専門業者に廃棄を依頼しています。 | ○ |
| 労働安全衛生法 | 特定化学物質障害予防規則等 | ・リスクアセスメント義務化対象となる化学物質についてのリスクアセスメントを実施しました。<br>①メタノール　②アルカリ溶液SK-501 | ○ |
| フロン排出抑制法 | 冷媒漏洩点検・整備記録等 | ・実施しました。 | ○ |

# ９．代表者による全体の評価と見直し

今期６１期は新たな5ヶ年ミッション【貢献に生きる人財つくりと輝く未来を手にする企業つくり】の３年目、折り返し地点を迎えました。
このミッションは仕事の課題を自分事と捉え、人と共に協力し乗り超える力を持つ人財育成を推し進めることで会社の中でも社会でも自分も他人も成果をあげ、喜びあえる未来を輝く未来と位置づけ、5ヶ年で人財と輝く未来の礎を創り出そうとしています。

5ヶ年ミッションがスタートしてから若年層の採用が進んだ事と女性比率の上昇は特筆に値すべき内容です。
だからこそ属人化している仕事を仕組みの中で成しえる仕事にすることに力を注いでいる過程の中で迎えた今期、DRの仕組みの大幅な見直しにより現状のウィークポイントと、それに伴う改善点を社内が認識することができ、標準化につなげる事も出来ました。
また昨今の物価高騰に伴う人件費改善の第一歩として専門家にご指導を頂き原価の明確化を進めることができたことも5ヶ年ミッションを進めていく原動力となりました。
道半ばの現時点では改善すべき課題が山盛りですが、課題が見えているからこそ残り2年に向けて加速度を上げていく一年になった事、今期の目標に真摯に向き合ってくれた従業員一人一人に感謝しております。

62期は2ヶ年ロードマップ推進ビジョンを掲げ始動しています。
初の取り組みとしてリーダー以上の管理職全員でロードマップを作り上げました。
輝く未来へ向けて邁進してまいります。

代表取締役社長　百瀬真希

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

【62期方針説明会】
62期の社長方針と各部門の目標を発表し各部門が目標達成に向け始動しました。

# 10. 環境活動への取組み

## 地域社会への貢献

毎年の恒例行事である地域環境維持活動として、地元上原区の上川右岸を守る会等に参加しています。清水川の河川清掃、社員の通勤路である江川橋の定期清掃、周辺道路の雪かき等により、会社周辺の美化にも努めています。

河川清掃活動の様子

周辺道路清掃活動の様子

## 社内緑化への取組

会社の緑化・野菜の栽培

敷地内に木や花を植える、グリーンカーテンを作るなど、緑化を進めています。前期に引き続き今期も畑を作り、長ネギ、白菜、大根等を育てました。

## 太陽光発電設備設置

第１工場（47.56Kw）第２工場（72.00Kw）屋上へ太陽光発電設備を設置。
２０２３年４月から稼働開始し、省エネルギー化を推進しています。

太陽光発電設備

# 11．社会活動への取組み

社会への貢献

永明中ジョブギャラリー　２３/１０/２７

愛知県小牧市立味岡中学校工場見学　２３/１０/１８

茅野どんぱんへの参加　２４/８/６

地域企業として茅野市のジョブギャラリーへの参加、学生の見学を受入れました。
また、地元茅野市の夏祭り「茅野どんぱん」へ参加し地域を盛り上げています。
働くことの意義、5S活動やSDGｓの取り組みといった今後の社会を創造する若者への教育一環として活動出来ました。

memo

私たちは、地域と地球の環境に配慮した事業者です

®環境省

エコアクション21

認証番号0007191

MIYAMA

株式会社 みやま